

# 2/5 りんかい日産建設が撤去可能な 「テーパー型基礎杭」と施工手法の開発

りんかい日産建設は、2月5日(月)に「海再生可能エネルギー推進」に資する「撤去可能なテーパー型基礎杭とその施工手法の開発」を発表した。

今回の撤去工法は、困難とされた大口径基礎杭の完全撤去が容易となり、工工程減のシナジー効果、CO2排出削減を自標とする。

共同事業者は寄神建設

りんかい日産建設は、2月5日(月)に「海再生可能エネルギー推進」に資する「撤去可能なテーパー型基礎杭とその施工手法の開発」を発表した。

今回の撤去工法は、困難とされた大口径基礎杭の完全撤去が容易となり、工工程減のシナジー効果、CO2排出削減を自標とする。

共同事業者は寄神建設



大下執行役員



新谷技術課長



好田寄神建設部長



金田研究所社長

### 新工法 (テーパー杭工法)

目標  
コスト・CO2  
50%削減

- ・シンプル
- ・短時間
- ・低コスト
- ・CO2排出小

新工法テーパー杭

# 「港湾の施設の技術上の基準」 港湾協会が講習会を開催 1月31日

(公社)日本港湾協会は、1月31日(木)午前9時半から、東京・水戸の防衛会館で、「港湾の施設の技術上の基準」講習会を開催した。

同基準は、社務部などから関係者を招き、本年4月1日に関係法を施行する。同基準の改訂に伴い、業務に内容を反映する一助として日本港湾協会が執筆者を講師に招き、講習会を開催した。

約400名の受講者が、熱心に受講した。

はじめに、須野原豊公社、日本港湾協会理事長が「本日の講習会は、平成30年4月から大幅に改訂される予定の港湾の施設の技術上の基準について、執筆者を講師に招き、講習会を開催する。関係者を講師に招き、講習会を開催する。関係者を講師に招き、講習会を開催する。」と述べた。

続いて、川俣国土交通省港湾局技術企画課長補佐が「港湾の施設の技術上の基準の改訂概要」について説明した。

川俣課長補佐は、技術基準への適合性確保制度について、港湾の技術上の基準の改訂事項を説明した。

①遠隔操作された移動式荷役機械の技術基準の制定では、管理棟からR/T



宮田国総研港施研室長



川俣港湾局課長補佐



須野原港湾協会理事長



「港湾の施設の技術上の基準」講習会の模様

に制定され、その後技術や社会情勢の変化に伴い、概ね10年程度の開隔で改訂されてきた。具体的には、後述の講師の皆さまから話を聞いたかと思いますが、コンテナ船やクルーズ船を含めた船舶の大型化が進み、それに伴って港湾施設も大型化や改訂を進めていく。また、環境面では、地球温暖化対策という観点から環境保全の対策が進められていく。i-constructionに取り組みされています。東日本大震災などの経験から、耐震設計、耐津波設計が従来にも増して重要になってきました。重要には技術体系の合理化・国際化を視野に入れた改訂が必要とされています。また、合理的な設計手法の導入、あるいは省資源設計など、設計の考え方も必要となります。当協会は、今回の改訂に合わせて「港湾の施設の技術上の基準」の改訂を5月に発行し、皆さまの仕事に役立てていただければ幸いです。本日の講習会が、来年度から適用される新たな基準の円滑な適用の一助となることを祈念し、あわせて講習会の開催を歓迎いたします。

①性能確保の流れ十設計の基本理念  
②改良設計  
③部分設計の取扱い  
④防波堤掘削工の設計法の変更  
⑤津波浸透を考慮した防波堤の支持力設計法(暫定)  
⑥船舶引き寄せの他、防波堤の機能確保  
⑦防波堤の機能確保  
⑧防波堤の機能確保

宮田室長は、「今回技術基準を見直した趣意として、技術上の設計に、基礎の役割を考えると、この作業は異なる組織や技術者をつなぐものと思われ、そのため、大変な作業量になりますが、勉強のチャンスでもあります。定期的な講習会を開催し、技術上の基準の改訂について、関係者各位が理解を深め、改訂後の技術上の基準を円滑に適用できるように努めてほしい」と述べた。

また、宮田室長は、改訂後の技術上の基準について、関係者各位が理解を深め、改訂後の技術上の基準を円滑に適用できるように努めてほしい」と述べた。

# 第21回海岸シンポジウムの開催 高潮災害に備える

全国海岸事業促進連合会(海連)は、11月30日(木)午後1時から、東京・有明の東京有明ホテルで、第21回海岸シンポジウムを開催した。

シンポジウムは、高潮災害に備えるというテーマで、高潮災害の現状と課題、高潮災害の対策、高潮災害の被害軽減策などについて、関係者各位が意見を交わした。

シンポジウムは、高潮災害に備えるというテーマで、高潮災害の現状と課題、高潮災害の対策、高潮災害の被害軽減策などについて、関係者各位が意見を交わした。

シンポジウムは、高潮災害に備えるというテーマで、高潮災害の現状と課題、高潮災害の対策、高潮災害の被害軽減策などについて、関係者各位が意見を交わした。



第21回海岸シンポジウムの模様

# 12/7 みなと総研が港友研究会へ地域の 経済と社会の継続マネジメント

(財)みなと総合研究所(港友研究会)は、12月7日(木)午後5時から、東京・有明の東京有明ホテルで、港友研究会の第30回総会を開催した。

総会では、みなと総研の経営戦略と、港友研究会の活動について、関係者各位が意見を交わした。

みなと総研の代表取締役社長は、「みなと総研は、地域の経済と社会の継続マネジメントをテーマとして、様々な事業を展開している。港友研究会は、みなと総研の活動を支援し、地域の発展に貢献している。」と述べた。

# CDITが港湾技術の確認審査 11月29日

(財)沿岸技術研究センター(CDIT)は、11月29日(木)午後1時から、東京・西新井のCDIT本館で、平成29年度上期港湾関係事業の評価確認審査式を開催した。

審査式では、港湾関係事業の評価確認審査の結果を発表し、関係者各位が意見を交わした。

CDITの代表取締役社長は、「CDITは、港湾技術の継続的な向上と普及を目的として、様々な事業を展開している。今回の審査式は、CDITの活動を評価し、関係者各位の意見を聴く機会となった。」と述べた。

# 事業継続のためのマネジメント

事業継続のためのマネジメントは、災害発生時に事業活動を継続させるための重要な要素である。本誌では、事業継続のためのマネジメントの重要性と、具体的な対策について紹介する。

事業継続のためのマネジメントは、災害発生時に事業活動を継続させるための重要な要素である。本誌では、事業継続のためのマネジメントの重要性と、具体的な対策について紹介する。

# 高潮災害に備える

高潮災害は、近年増加傾向にある。高潮災害に備えるためには、高潮災害の現状と課題、高潮災害の対策、高潮災害の被害軽減策などについて、関係者各位が意見を交わした。

高潮災害は、近年増加傾向にある。高潮災害に備えるためには、高潮災害の現状と課題、高潮災害の対策、高潮災害の被害軽減策などについて、関係者各位が意見を交わした。

# CDITが港湾技術の確認審査

CDITは、港湾技術の継続的な向上と普及を目的として、様々な事業を展開している。今回の審査式は、CDITの活動を評価し、関係者各位の意見を聴く機会となった。

CDITは、港湾技術の継続的な向上と普及を目的として、様々な事業を展開している。今回の審査式は、CDITの活動を評価し、関係者各位の意見を聴く機会となった。

# 事業継続のためのマネジメント

事業継続のためのマネジメントは、災害発生時に事業活動を継続させるための重要な要素である。本誌では、事業継続のためのマネジメントの重要性と、具体的な対策について紹介する。

事業継続のためのマネジメントは、災害発生時に事業活動を継続させるための重要な要素である。本誌では、事業継続のためのマネジメントの重要性と、具体的な対策について紹介する。



西尾技術監理室長



善委員長



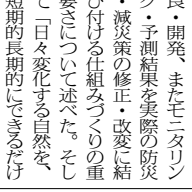
高橋CDIT理事長



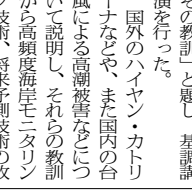
CDIT評価確認交付式の模様



山本所長



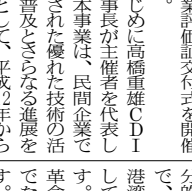
山縣副理事長



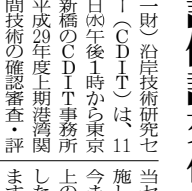
鬼頭理事長



第40回港友研の模様



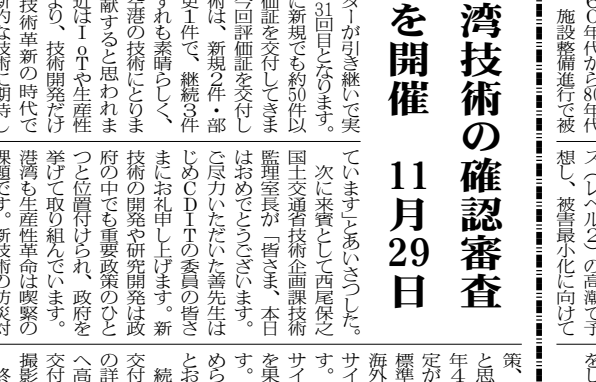
小野京大大学院客員教授



山本所長



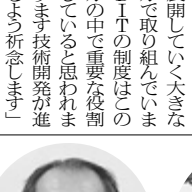
山縣副理事長



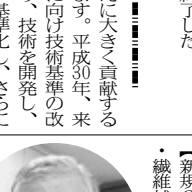
CDIT評価確認交付式の模様



西尾技術監理室長



善委員長



高橋CDIT理事長



CDIT評価確認交付式の模様